



上田 日差し氏プロフィール

1961 年静岡県生まれ。父の上田五千石、祖父の上田古笠も俳人。1977 年より作句をはじめ、父・五千石に師事、「畦」入会。1997 年、五千石の逝去により「畦」終刊。1998 年 3 月、「ランブル」を創刊・主宰。句集に「日差集」「忘南」があり「和音」は第三句集。俳人協会幹事。

『和音』

(自選15句)

上田日差し

梅林といふ密々のはなのこゑ
立つことは枯れてゆくこと大はちす
七草の数をひもとくやうに解き
等分の水の折り目を作り滝
空蟬を洞のひとつに数へたり
深吉野や月光に鯉ひるがへり
三極の花の膝下といふべしや
飯の世にいろあらはこの桜負
心にも正面ありぬ夜の桃
吊し雛ひとつひとつを灯にくるみ
宇治十帖ところに花を惜しむかな
芽牡丹や燠のごとくに父の言
芽吹山詩には未生のことばたち
初蝶来白を光の使徒として
水鳥を数へる間の夕明り